

### キーワード：

旧中村洋裁学院  
各種学校  
戦後  
袋井市  
登録有形文化財

### 抄録

本稿では旧中村洋裁学院校舎の文化財的価値について報告する。旧中村洋裁学院は袋井市中心部に位置する、各種学校の校舎として建てられた建築物である。その主たる部分は、地方における戦後復興期の様子を伝える希少な事例と考えられる。

## 1. はじめに

本稿では旧中村洋裁学院校舎の文化財的価値について報告する。筆者らは2012年から2016年にかけて、当該建造物について建築史的な調査を行い、所見、図面等を作成した<sup>1)</sup>。これに基づき当該建造物は国登録有形文化財となった(2017年)。ここではその知見を報告し、地域の文化財建造物理解の一助となればと願う次第である。

## 2. 概要と沿革

旧中村洋裁学院は、袋井市の中心部に位置する、各種学校の校舎として建てられた建築物である。木造2階建、瓦葺き、下見板張りを主とする。

中村洋裁女学院として、中村ゆきによって1949(昭和24)年に設置認可申請され、翌年に主となる校舎を建築し、数度にわたる増改築を経て1993(平成5)年まで運営された。建物はその後、琴の教室として現在まで使われるとともに、一部は建築設計事務所としての使用を経て、地域のまちづくり活動の拠点「どまんなかセンター」として利用されている。2012(平成24)年には、外壁および屋根の改修が行われ、当初の下見板が残存していた箇所に基づき、色が復元されている。

## 3. 敷地と景観

敷地は、南側が原野谷川の堤防側道に、西側が公園に隣接しており、公園は静橋詰から北側の旧東海道までの県道に接道している。この立地により、建物は原野谷川対岸、静橋上、旧東海道等、広範囲から目にすることができ、景観上の要所となっている。

静橋と公園は1990(平成2)年に架け替え、整備されたもので、それまでは西側には建物があり、望見することはできなかった。また、東側には1962(昭和37)年まで静岡鉄道秋葉線の「袋井町」駅があり、

<sup>1)</sup> この調査は次の調査員によって実施した。倉田裕司(倉布人一級建築士事務所/静岡県文化財建造物監理士)、倉田布美江(同)、土屋和男(常葉学園大学造形学部(2012年当時))。資料収集、図面作成等を倉田裕司、倉田布美江が行い、所見書の執筆を土屋が担当した。本稿は当該初見書(未公開)に加筆したものである。

校舎は原野谷川の橋を渡る車中からよく見えたという。

## 4. 建造物

建物は、建設時期の異なる4つの部分からなり、それらは外観からも判別できるが、内部は連続しており、用途上は一体で使用されてきた。4つの部分とは、A)南側の、1950(昭和25)年に建てられた、木造2階建、切妻瓦葺き、鎧下見板張りの部分、B)北西側の、大正期に建てられたという、木造2階建、寄棟瓦葺き、金属板および押縁下見板張りの部分、C)北東側の、1953(昭和28)年に建てられた、木造2階建、金属板葺き片流れ、金属板張りの部分、D)A~Cによって囲まれた部分、である。

A)は、全体の半分程の面積を占め、階高、棟高も最も高く、この建物の主となる部分で、1950(昭和25)年11月に建築物竣工届が出されている。南側の道路から引き込まれた東側に入口を開き、1、2階ともにほぼ全体が教室となっている。基礎は外周を鉄筋コンクリートの布基礎とし、大引の要所を束石で支えている。1、2階とも梁行方向の全部を使って一室とし、小屋組はキングポストラスとなっている。窓の位置は東西で異なっており、壁内に筋交が入っている。屋根は瓦葺きで棟飾りに校章が刻まれている。

屋根材は、建築認可申請書(昭和25年1月16日受付)では「壁：漆喰、屋根：亜鉛鉄板」となっているが、臨時建築制限規則による許可(及び資材割当)申請書(建築認可申請書と同日受付)では「外壁：下見板張、屋根：亜鉛鉄板」、建築物竣工届(昭和25年11月1日届出)では「瓦葺(壁は記載なし)」となっている。臨時建築制限規則では、亜鉛鉄板は板硝子とともに対象資材となっており、これらに鑑みて屋根材が瓦葺きになった可能性も考えられる。こうした終戦後まもなくの状況が書面で残されていることも貴重と思われる。

B)は、洋裁学校開設以前に営まれていた米穀商の住宅の一部であったといわれ、1944(昭和19)年の

東南海地震で倒壊を免れた部分であるという。Aの部分  
が建設される以前から、2階を校舎としていたことが  
各種学校設置認可申請書によりわかる。現状は、1  
階は8畳分の板の間2部屋、2階は8畳分の板の間1  
部屋と和室8畳に床の間とからなっているが、Cの増  
改築後の略図（作成時期不明）では、それぞれ1階は  
職員室、研究室、2階は休養室、作法室と記されてい  
る。2階の板の間の階段上部には、額縁を丁寧な漆喰  
で仕上げた円形の地下窓があり、2階和室の床廻りは  
銘木が用いられており、戦前期の座敷の意匠を見せて  
いる。外壁は押縁下見板張りであったが、2012（平成  
24）年の改修で西側が金属板になっている。

C）は、Aの北側、Bの東側に増築された部分で  
1953（昭和28）年4月に建築確認通知書が発行され  
ている。Aの北側に入口を設け、現状の2箇所の入口  
の原型となった。当初は1階の既存の調理場の北側に  
5畳と板の間を加え、階上に教室1室を設けたもので  
あったが、その後少なくとも2度の増改築が行われ、  
現状では1階は風呂、便所等が増設され、2階は2室  
に分かれ、階段の位置も変わっている。

D）は、A、B、Cによって囲まれた庭の上部に部  
屋を設けたもので、Cの増改築後の略図では寄宿室と  
記されている。この時点では1階は土間と昇降口が設  
けられていたが、その後ここにも床が張られ、現状の  
昇降口は東側に移動している。

## 5. まとめ

旧中村洋裁女学院校舎は、その主たる部分が、終戦  
後の臨時建築制限がかかっていた時期の遺構であり、  
地方における戦後復興期の様子を伝える希少な事例と  
考えられる。その立地は原野谷川に面し、静橋を渡る  
人だけでなく、建設後十数年は静岡鉄道秋葉線の車中  
からも多くの人が洋風の特異な建物として目にしてき  
た。現在は西側に公園が隣接するために、広範囲から  
その姿を目にすることができる。以上より当該建造物  
は、国土の歴史的景観に寄与しているものとしての価  
値を有していると考えられる。

本調査後、当該建物は2017年に、袋井市景観重要  
建造物第1号に指定され、同年、なかなか遺産第4号  
にも認定されたことを申し添える。

謝辞：

所有者の中村眞氏、写真の使用を許諾いただいた浅川  
敏氏に感謝申し上げます。



古写真 外観



古写真 外観



古写真 A) 2階教室



古写真 西対岸からの遠景



原野谷川対岸からの景観

(撮影：浅川敏)



南東側外観 原野谷川堤防側道からの景観

(撮影：浅川敏)



北西側外観 公園からの景観

(撮影：浅川敏)



屋根棟飾り 校章が刻まれている

(撮影：浅川敏)





A) 2階教室

(撮影：浅川敏)



B) 2階和室

(撮影：浅川敏)



A) 2階教室

(撮影：浅川敏)



B) 2階階段廻り

(撮影：土屋和男)



A) 小屋組

(撮影：土屋和男)



C) 2階廊下

(撮影：浅川敏)



A) 基礎

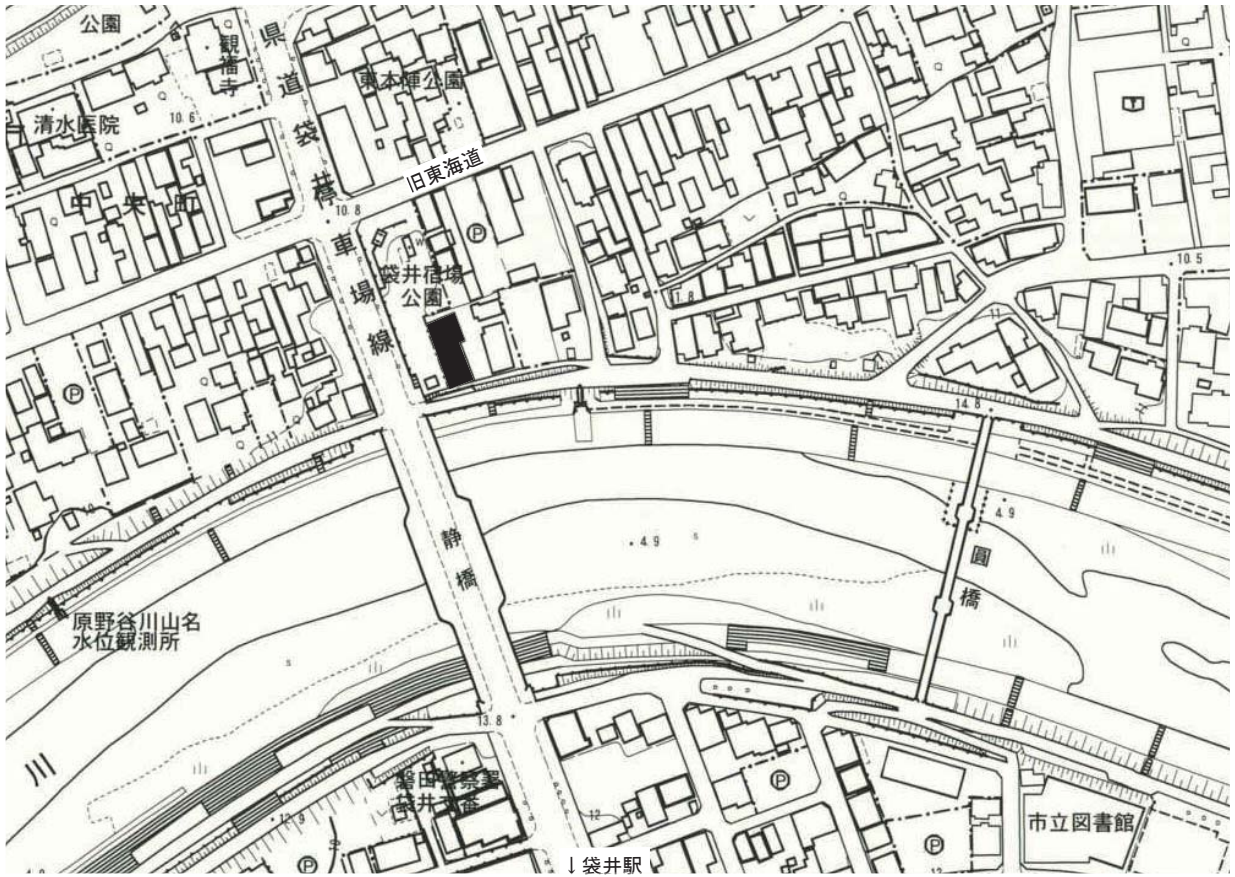
(撮影：土屋和男)



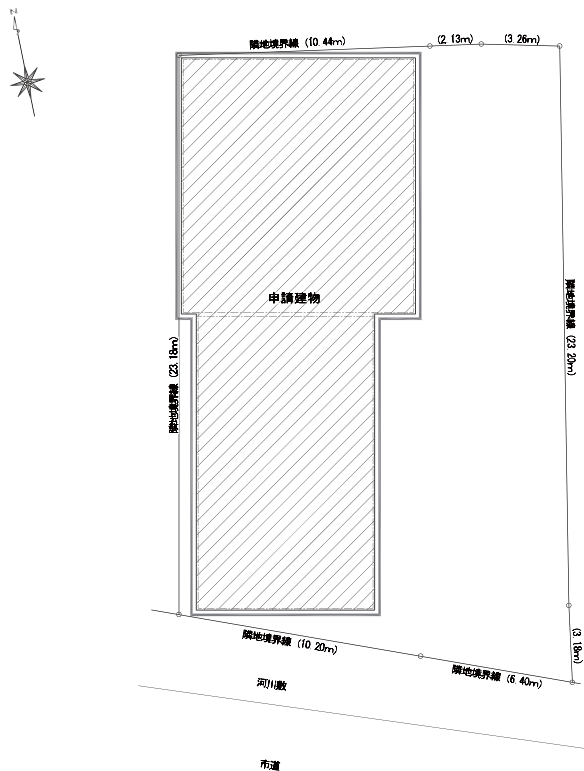
C) 昇降口附近

(撮影：浅川敏)



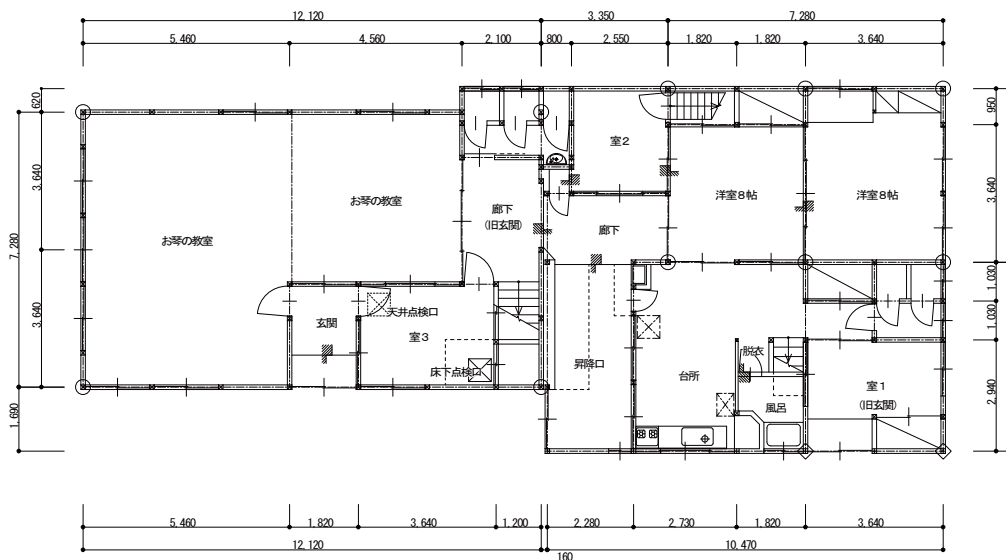
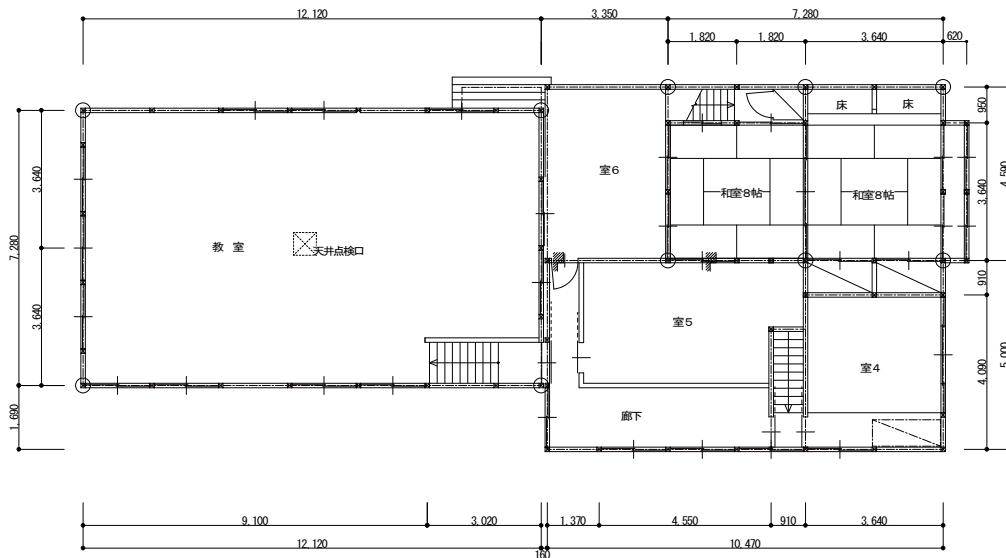


位置図 1/2500



— 遠望図で見える範囲

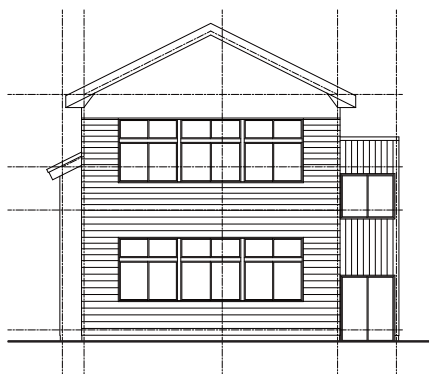
配置図 1/300



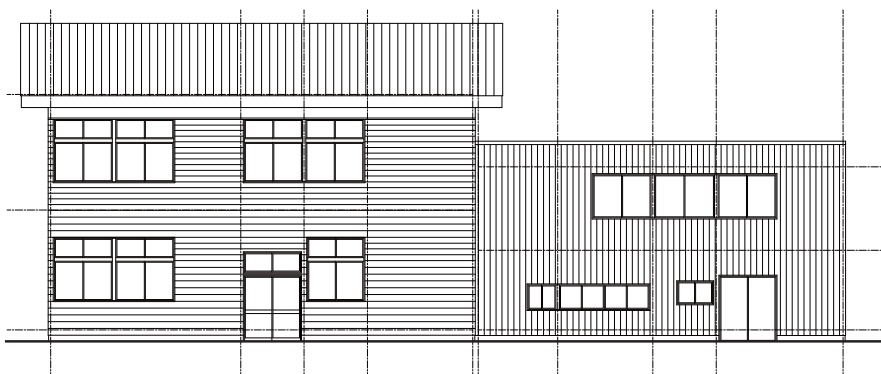
2階平面図 1/200

1階平面図 1/200

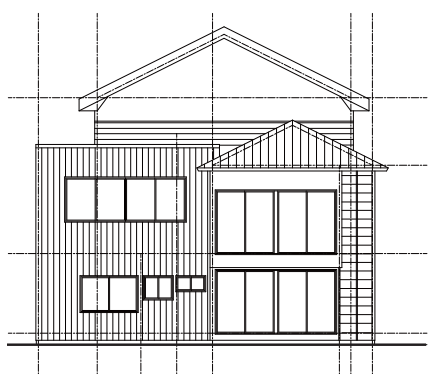




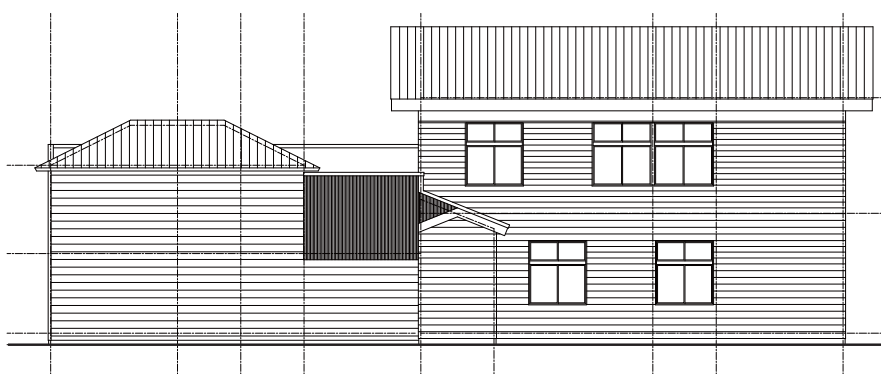
南立面図



東立面図



北立面図



西立面図

立面図 1/200

作図はすべて倉布人一級建築士事務所